

流域治水プロジェクト2.0

～流域治水の加速化・深化～

- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

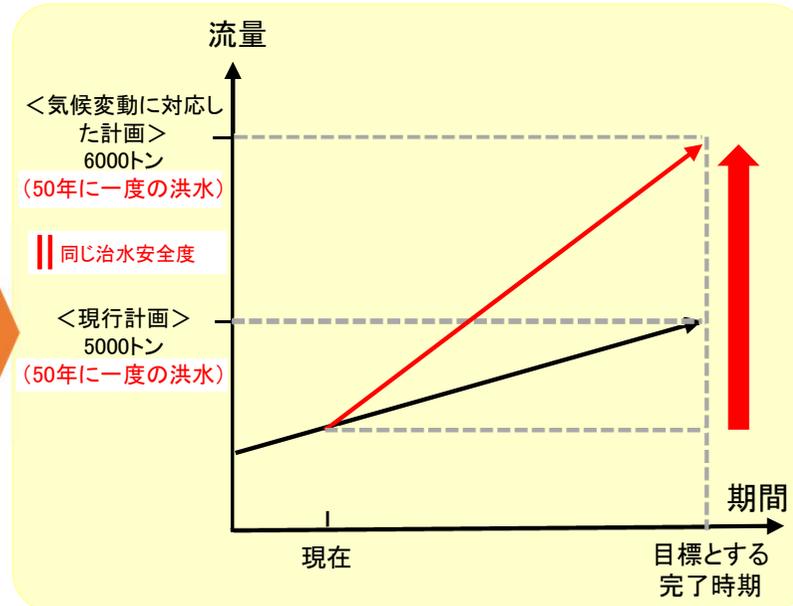
現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
- 現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

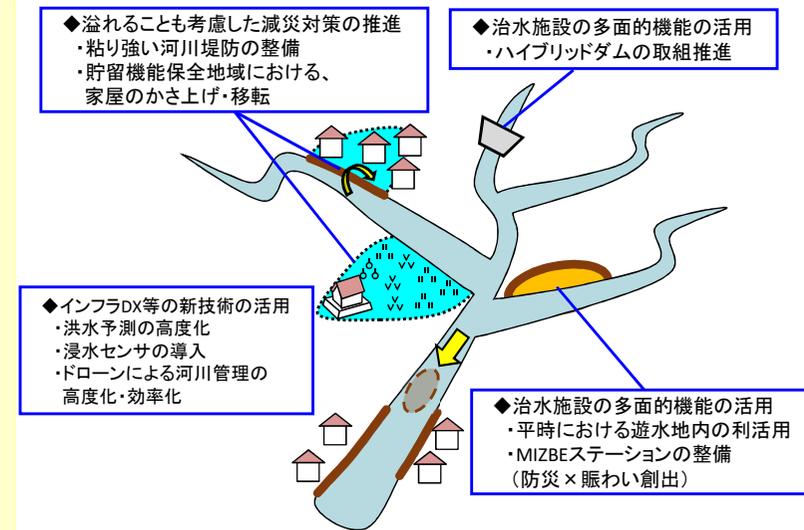
必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図り、流域治水協議会等の関係者間で共有する。

必要な対応のイメージ



様々な手法の活用イメージ



気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量
	約1.2倍

同じ治水安全度を確保するためには、
目標流量を1.2倍に引き上げる必要

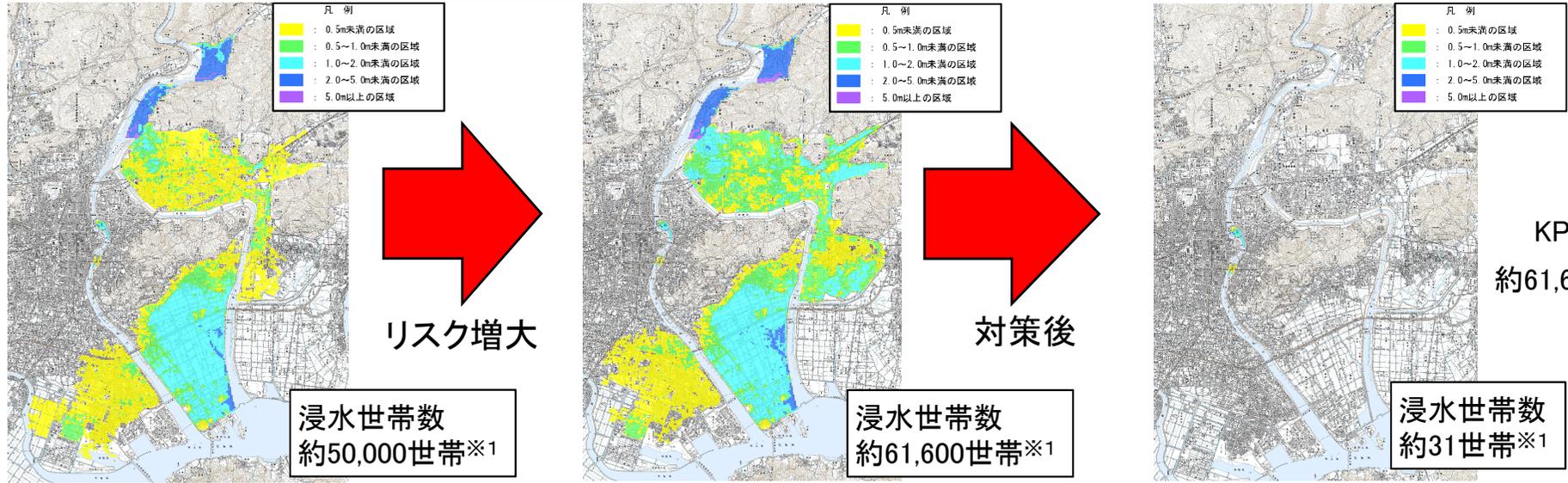
※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、
様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要

⇒現在の河川整備計画に基づく対策や流域における各取組を推進するとともに、気候変動を踏まえて追加で必要となる
対策案の詳細については、更に議論を深めていく。

気候変動に伴う水害リスクの増大

○観測史上最高水位を記録した地球温暖化の影響が指摘される平成30年7月洪水や、昭和47年7月など主要洪水において 2°C上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水が発生した場合、旭川下流域では浸水世帯数が約61,600世帯になると想定され、事業の実施と追加の対策により、約31世帯に軽減される。

■気候変動に伴う水害リスクの増大



【目標①】
KPI: 浸水世帯数
約61,600世帯⇒約31世帯

<現況(気候変動考慮前)>

<気候変動考慮(1.1倍)>

<対策後>

■水害リスクを踏まえた各主体の主な対策と目標

【目標①】気候変動による降雨量増加後の河川整備計画で目標とする規模の洪水に対する安全の確保

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	国	約61,600世帯の浸水被害を解消	・河道掘削:約3.6万m ³ <気候変動前の約1.8倍> ・旭川中上流ダム再生	概ね20年
	岡山県	平成30年7月洪水と同程度の洪水から人家等浸水被害の解消又は軽減	・旭川の堤防整備、河道掘削	概ね30年
	岡山市	戦後最大洪水で外水氾濫を防止	・倉安川の河道掘削 ・排水ポンプ整備、サイフォン改良	概ね20年
被害対象を減らす	岡山市、赤磐市、真庭市	浸水リスクを考慮したまちづくりの推進	・立地適正化計画の策定、見直し	概ね5年
	岡山市	防災拠点としての機能維持	・内水による想定浸水深を考慮した市役所新庁舎の整備	概ね5年
被害の軽減・早期復旧・復興	岡山市	浸水リスク情報の発信	・web版ハザードマップの公表	継続実施
	JR西日本	甚大な浸水リスクの回避	・留置車両(新幹線・保守用車)の浸水可能性を判断・予報する「河川氾濫可能性予測コンテンツ」の導入	実施済

※1 旭川水系(大臣管理区間)全体での外水による浸水世帯数を示す。
※2 旭川水系河川整備計画(大臣管理区間)は、令和元年6月に気候変動による降雨量増加を考慮して変更済み。

【目標②】旭川下流域における内水被害の軽減(1/10規模降雨の雨水出水による浸水被害を防止)

種別	実施主体	目的・効果	追加対策	期間
氾濫を防ぐ・減らす	岡山市	内水浸水による被害防止・軽減	・雨水幹線等の下水道整備 ・雨水排水ポンプの整備 など	概ね30年
	岡山市	内水浸水による被害防止・軽減	・用水路の事前水位低下	継続実施
被害の軽減・早期復旧・復興	岡山市、岡山河川事務所	浸水発生の早期把握	・ワンコイン浸水センサの活用検討(DX)	継続実施
	岡山河川事務所	浸水リスク情報の発信	・内外水統合型水害リスクマップの作成、公表	概ね5年
	岡山市	浸水リスク情報の発信	・内水ハザードマップの作成、公表	継続実施

旭川水系流域治水プロジェクト【位置図】

R6年度末時点

～岡山の政治・経済・文化の中心地を守る流域治水対策の推進～

- 平成30年7月豪雨では、西日本各地で戦後最大を超える洪水となり甚大な被害が発生したことを踏まえ、旭川水系においても以下の取り組みを一層推進し、事前防災対策を進める必要があります。
- このため、旭川及び支川百間川の大臣管理区間では、観測史上最高水位を記録した地球温暖化の影響が指摘される平成30年7月洪水による再度災害の防止・軽減、さらには、気候変動(2℃上昇)下でも目標とする治水安全度を確保するため、昭和47年7月など主要洪水において気候変動による降雨量増加を考慮(降雨量1.1倍)し、流量が増加した場合においても、洪水等による災害の発生を防止又は軽減させることを目指した河川整備を行うとともに、多自然川づくりを推進します。
- 旭川流域全体の本支川・上下流、氾濫域や集水域においては、旭川中上流ダム再生事業や堤防整備、河道掘削、内水被害を軽減する排水機能増強や水路の事前水位低下などを推進して浸水被害の防止・軽減を図り、あわせて、迅速かつ適切な情報取組・提供体制を構築し、ホットラインを含めた確実な避難行動に資する情報発信などの取り組みを実施することで、「逃げ遅れゼロ」を目指します。
- これに加え、気候変動に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化という新たな課題や、流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少等を踏まえ、将来にわたって安全な流域を実現するため、浸水リスクが高い地域において特定都市河川浸水被害対策法の指定の検討を含め、流域治水対策の更なる強化を進めます。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・堤防整備、河道掘削、旭川中上流ダム再生 等【岡山市、岡山県、中国地整】
- ・雨水幹線の新設、能力向上【岡山市】
- ・ポンプ場の耐水化・耐震化【岡山市】
- ・用水路から雨水管渠への取水ゲートの遠隔操作化【岡山市】
- ・土砂流出対策施設の整備【岡山県、近畿中国森林管理局】
- ・利水ダム等11ダムにおける事前放流等の実施、体制構築【岡山県、中国電力(株)等】
- ・貯留施設の新設【岡山市】
- ・農業用ため池から河川管理施設の洪水調節地へ転換・運用【岡山市】
- ・用水路の事前水位低下による雨水貯留【岡山市】
- ・改修を行う農業用ため池について活用を検討
- ・農業用ため池の低水管理及び事前放流【赤磐市】
- ・田んぼダムの取組【岡山市、赤磐市】
- ・大規模な開発行為等に伴う雨水流出抑制施設の整備に対する補助【岡山市】
- ・補助制度を活用した各戸貯留施設設置の推進【岡山市】
- ・森林の整備による洪水緩和機能の適切な発揮【岡山県、森林整備センター、近畿中国森林管理局】
- ・透水性能舗装を用いた歩道整備【岡山市、中国地整】

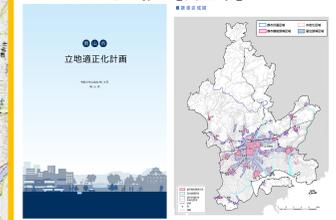
■被害対象を減少させるための対策

- ・浸水リスクを考慮した市役所新庁舎の整備【岡山市】
- ・立地適正化計画に基づく浸水リスクを考慮したまちづくりの推進【岡山市、赤磐市】
- ・浸水リスクを考慮した立地適正化計画策定の検討【真庭市】

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・内水ハザードマップの作成、公表【岡山市】
- ・web版ハザードマップの公表【岡山市】
- ・内外水統合型水害リスクマップの作成、公表【中国地整】
- ・水害リスク情報空白域の解消【岡山県】
- ・水位計や河川監視カメラによる河川情報の提供
- ・関係機関が連携したタイムラインの運用、改善
- ・マイ・タイムライン等による防災教育
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・止水板設置に対する補助【岡山市】
- ・ワンコイン浸水センサによるリアルタイムの浸水把握(DX)【岡山市、中国地整】
- ・新幹線車両・保守用車 浸水対策ツールの導入【JR西日本】
- ・県・市町の連携による災害時の応急対策用大型土のうの備蓄、使用【岡山市、岡山県】
- ・総合水防演習や講習等の実施による水防活動の強化
- ・インフラDXにおける新技術の活用

立地適正化計画に基づく浸水リスクを考慮したまちづくりの推進【岡山市】



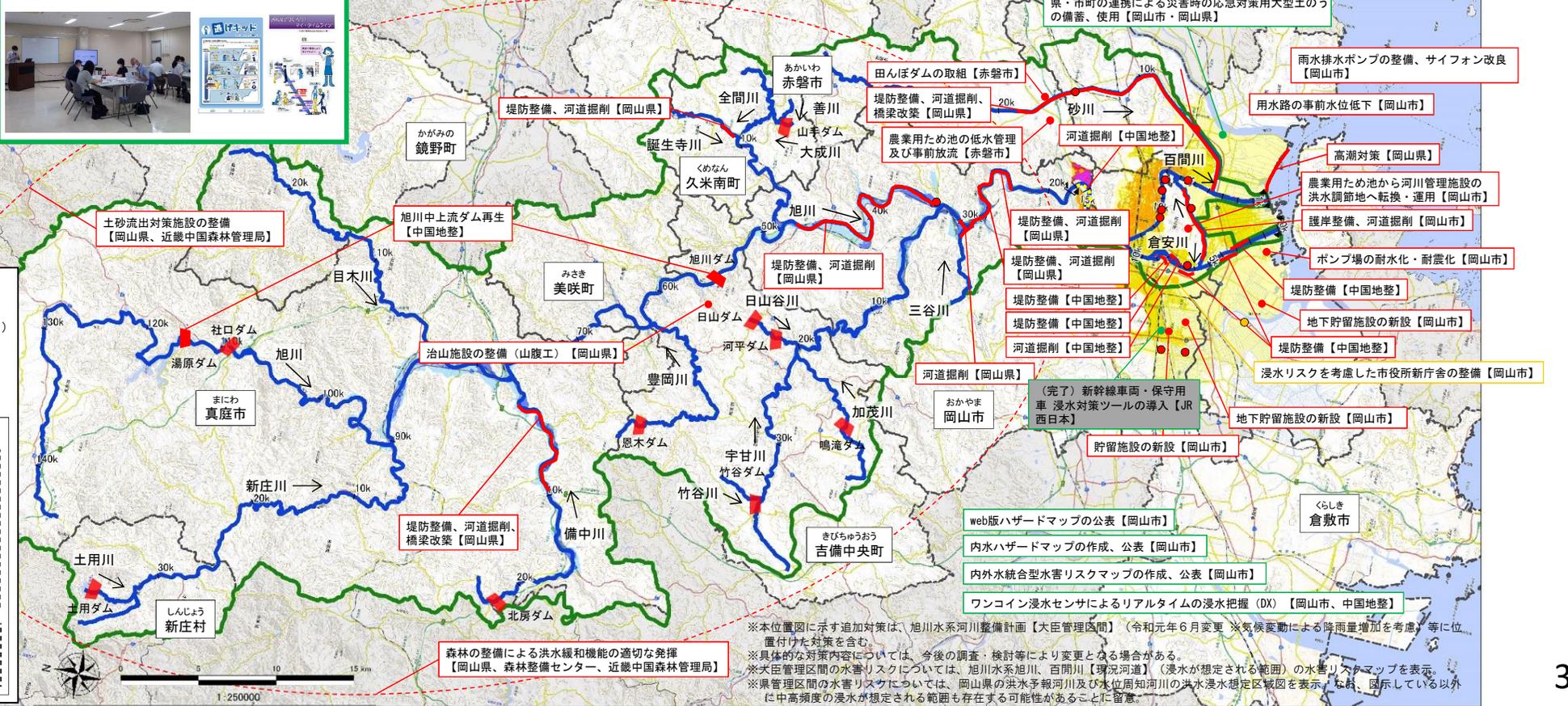
【位置図】



用水路水位の事前水位低下【岡山市】



マイ・タイムライン等による防災教育(岡山市への支援事例)



※本位置図に示す追加対策は、旭川水系河川整備計画【大臣管理区間】(令和元年6月変更 ※気候変動による降雨量増加を考慮)等に位置付けた対策を含む。
 ※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
 ※大臣管理区間の水害リスクについては、旭川水系旭川、百間川【環況河川】(浸水が想定される範囲)の水害リスクマップを表示。
 ※県管理区間の水害リスクについては、岡山県の洪水予報河川及び水位周知河川の洪水浸水想定区域図を表示。なお、図示している以外に中高頻度の浸水が想定される範囲も存在する可能性があることに留意。

氾濫を防ぐ・減らす

- 気候変動を踏まえた治水計画への見直し
(2℃上昇下でも目標安全度維持)
＜具体の取組＞
 - ・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくハード対策
(堤防整備、河道掘削、旭川中上流ダム再生等)
 - ・県管理河川(旭川)の堤防整備、河道掘削
 - ・市管理河川の河道掘削
 - ・雨水排水ポンプの整備、サイフォン改良
- 流域対策の目標を定め、
役割分担に基づく流域対策の推進
＜具体の取組＞
 - ・雨水管理総合計画等に基づくハード対策(雨水幹線等の下水道整備、
雨水排水ポンプの整備等)
- あらゆる治水対策の総動員
＜具体の取組＞
 - ・田んぼダムの取組
 - ・土砂流出対策施設の整備
- 多面的機能を活用した治水対策の推進
＜具体の取組＞
 - ・森林の整備による洪水緩和機能の適切な発揮
 - ・透水性舗装を用いた歩道整備
- 既存ストックの徹底活用
＜具体の取組＞
 - ・利水ダム等の事前放流等の実施
 - ・用水路の事前水位低下による雨水貯留
 - ・農業用ため池の治水転用
- その他
＜具体の取組＞
 - ・開発行為等に伴う雨水流出抑制施設の整備に対する協議の義務化
 - ・雨水流出抑制施設や各戸貯留施設設置に対する補助

被害対象を減らす

- 溢れることも考慮した減災対策の推進
＜具体の取組＞
 - ・浸水リスクを考慮した市役所新庁舎の整備
 - ・立地適正化計画に基づく浸水リスクを考慮したまちづくりの推進
 - ・浸水リスクを考慮した立地適正化計画策定の検討

被害の軽減・早期復旧・復興

- 気候変動を踏まえた治水計画への見直し
(2℃上昇下でも目標安全度維持)
＜具体の取組＞
 - ・気候変動を考慮した河川整備計画に基づくソフト対策
- 溢れることも考慮した減災対策の推進
＜具体の取組＞
 - ・止水板設置に対する助成
 - ・関係機関の水害タイムラインの運用、改善
 - ・マイ・タイムラインの作成支援
 - ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- インフラDX等の新技術の活用
＜具体の取組＞
 - ・内水ハザードマップの作成、公表
 - ・web版ハザードマップの公表
 - ・内外水統合型水害リスクマップの作成、公表
 - ・ワンコイン浸水センサの活用検討(DX)
 - ・新幹線車両・保守用車 浸水対策ツールの導入
 - ・洪水予測の高度化、・河川管理施設の自動化・遠隔化(DX)
 - ・デジタル技術を活用した災害リスクの可視化(DX)
 - ・三次元河川管内図の整備(DX)
 - ・BIM/CIM適用による三次元モデルの積極的な活用(DX)
 - ・水害リスクデジタルマップの拡充・オープンデータ化(DX)

旭川水系流域治水プロジェクト【グリーンインフラ】

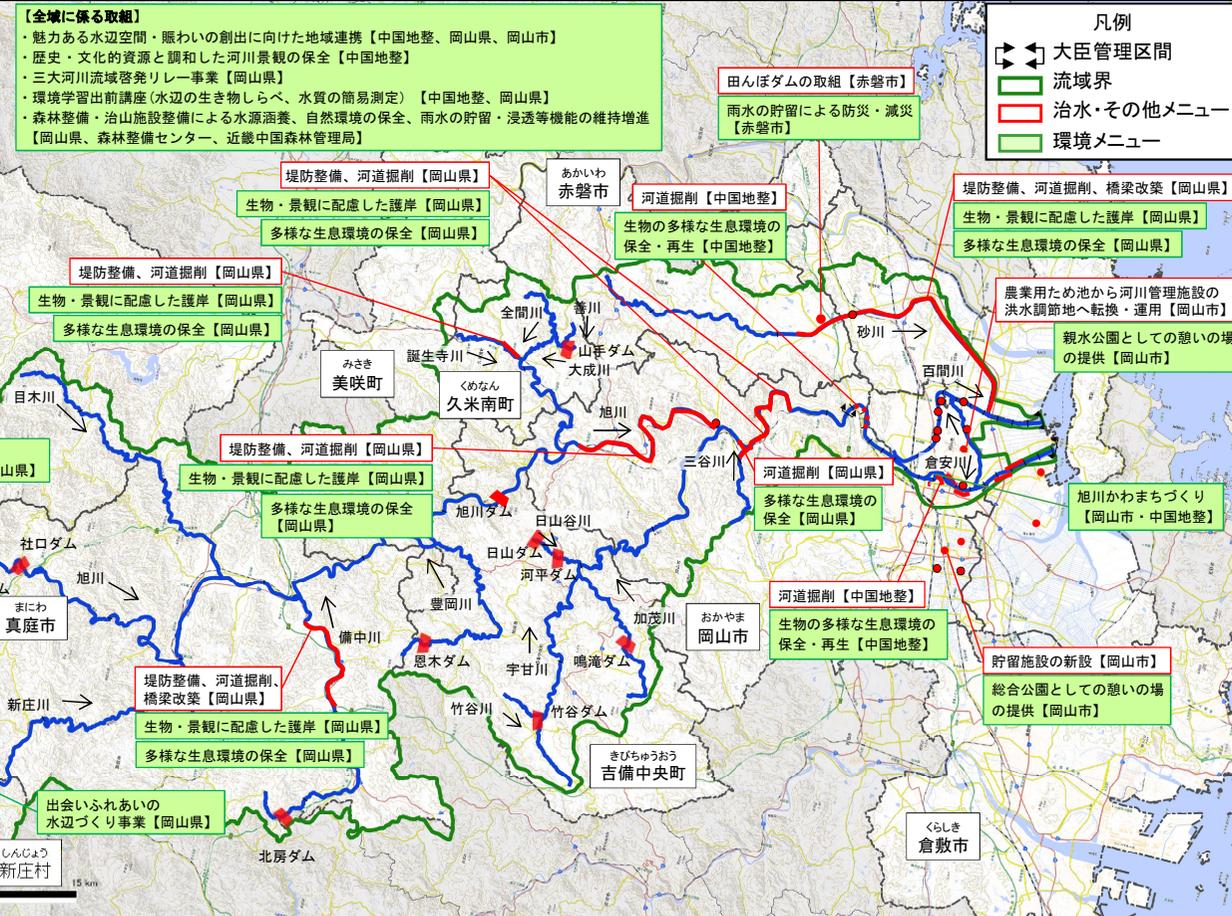
R6年度末時点



～岡山の政治・経済・文化の中心地を守る流域治水対策の推進～

●グリーンインフラの取組 『歴史・風土と調和した水辺の賑わい創出による地域活性化』

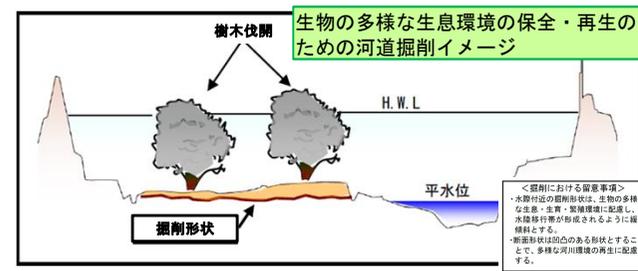
- 旭川水系には、河口部のヨシ原や湛水域、中流部の瀬・淵・ワンド等、多様な環境が存在し、多くの動植物が生息・生育する良好な河川環境であり、アユ漁も盛んに実施されるなど、次世代に引き継ぐべき豊かな自然環境が多く存在しています。また、岡山後楽園・岡山城周辺では、歴史・文化的資源と調和した良好な水辺景観が形成されています。
- 岡山後楽園・岡山城周辺における旭川では、河川空間オープン化による良好な水辺空間の利活用を官民が一体となって推進することを目標として、今後概ね5年間で「旭川かわまちづくり計画」に基づいた水辺整備を行うなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進します。



- ### ●治水対策における多自然川づくり
- ・ 河道掘削、護岸整備等における生物の多様な生息環境の保全・再生
 - ・ 干潟及びヨシ原の保全
 - ・ レキ河原の保全

- ### ●魅力ある水辺空間・賑わい創出
- ・ 旭川かわまちづくり
 - ・ 三大河川流域啓発リレー事業
 - ・ 出会いふれあいの水辺づくり事業
 - ・ 魅力ある水辺空間・賑わいの創出に向けた地域連携

- ### ●自然環境が有する多様な機能活用の取り組み
- ・ 水質調査等の環境学習、出前講座等
 - ・ 旭川かわまちづくり計画検討・推進会議
 - ・ 歴史・文化的資源と調和した河川景観の保全
 - ・ 大規模雨水貯留施設の設置
 - ・ 農業用ため池を洪水調節池として転用
 - ・ 森林整備・治山施設整備による水源涵養、自然環境の保全、雨水の貯留・浸透等機能の維持増進



旭川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

R6年度末時点

～岡山の政治・経済・文化の中心地を守る流域治水対策の推進～

○ 旭川では、上下流本支川の流域全体を俯瞰し、流域に関連する機関が一体となって以下の手順で「流域治水」を推進する。
 【短期】 浸水被害を防止・軽減するため、旭川水系下流部の堤防整備、砂川の改良復旧事業を実施。また、浸水リスクを考慮した立地適正化計画策定に向けた検討や計画に基づく浸水リスクを考慮したまちづくりの推進を図る。被害軽減策については、水位計や河川監視カメラによる河川情報の提供、マイ・タイムライン等による防災教育などを実施し、逃げ遅れゼロを目指す。
 【中期・中長期】 旭川水系の浸水被害を防止・軽減するため、河道掘削、堤防整備、旭川中上流ダム再生事業等を実施し、流域全体の安全度向上を図る。
 また、立地適正化計画に基づく浸水リスクを考慮したまちづくりの推進及び上記の被害軽減策について、継続的に実施する。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	浸水被害を防止・軽減するため、堤防整備、河道掘削を実施	中国地整、岡山市	旭川下流部	倉安川	
	浸水被害を防止・軽減するため、堤防整備、河道掘削、橋梁改築等を実施	中国地整、岡山県		旭川下流・中流部 旭川水系中流・上流部(旭川・砂川・三谷川・誕生寺川・備中川)	河川整備基本方針に向けて対策を推進
	浸水被害を防止・軽減するため、旭川中上流ダム再生事業を実施	中国地整		旭川中上流	
	改良復旧事業の推進	岡山県	砂川		
	内水被害を軽減するため、雨水幹線の新設、能力向上、ポンプ場の耐水化等を実施	岡山市			
	土砂流出対策施設の整備	岡山県、近畿中国森林管理局			
	農業用ため池から河川管理施設の洪水調節地へ転換・運用	岡山市			
	利水ダム等11ダムにおける事前放流の実施、体制の構築	岡山県、中国電力(株) 等			
	用水路の事前水位低下による雨水貯留	岡山市			
	農業用ため池の低水管理及び事前放流	赤磐市			
被害対象を減少させるための対策	大規模な開発行為等に伴う雨水流出抑制施設の整備に対する助成	岡山市	立地適正化計画策定済み(岡山市、赤磐市)		
	浸水リスクを考慮した立地適正化計画に向けた推進及び検討	岡山市、赤磐市、真庭市			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	浸水リスクを考慮した市役所新庁舎の整備	岡山市		WEB配信の実施 適切な維持管理と継続的な提供(中国地整、岡山県)	
	水位計や河川監視カメラによる河川情報の提供	中国地整、岡山県		防災教育の実施(市町村) 出前講座等の実施(中国地整、岡山県)	
	マイ・タイムライン等による防災教育	中国地整、岡山県、市町村			
	web版ハザードマップの公表 内水ハザードマップの作成、公表	岡山市			
	内外水統合型水害リスクマップの作成、公表	中国地整			
グリーンインフラの取組	ワンコイン浸水センサの活用検討(DX)	岡山市、中国地整	河道掘削、護岸整備等における生物の多様な生息環境の保全・再生(中国地整、岡山県) 干潟及びヨシ原の保全、レキ河原の保全(中国地整)	旭川かわまちづくり(中国地整、岡山市)	三大河川流域啓発 りレー事業(岡山県)
	治水対策における多自然川づくり	中国地整、岡山県		出会いとふれあいの 水辺づくり事業(岡山県)	
	魅力ある水辺空間・賑わい創出	中国地整、岡山県、岡山市			
	自然環境が有する多様な機能活用の取り組み	中国地整、岡山県、岡山市、赤磐市、森林整備センター、近畿中国森林管理局	大規模雨水貯留施設の設置、 農業用ため池を洪水調節池として転用(岡山市)	水質調査等の環境学習、出前講座等(中国地整、岡山県)旭川 かわまちづくり計画検討・推進会議(中国地整、岡山市) 歴史・文化的資源と調和した河川景観の保全(中国地整)	

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

■事業規模
 河川対策(約931億円)
 砂防対策(約60億円)
 海岸対策(約33億円)
 下水道対策(約257億円)

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

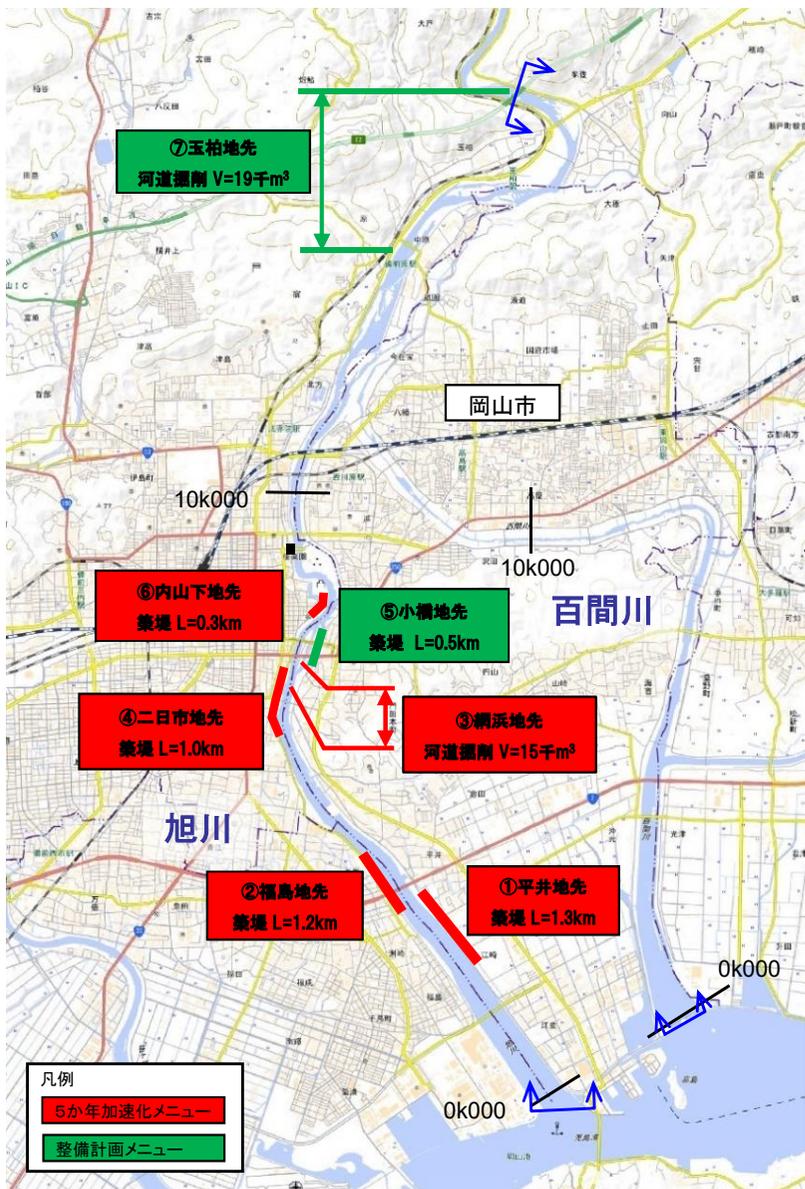
旭川水系流域治水プロジェクト【事業効果(国管理区間)の見える化】

令和3年度時点

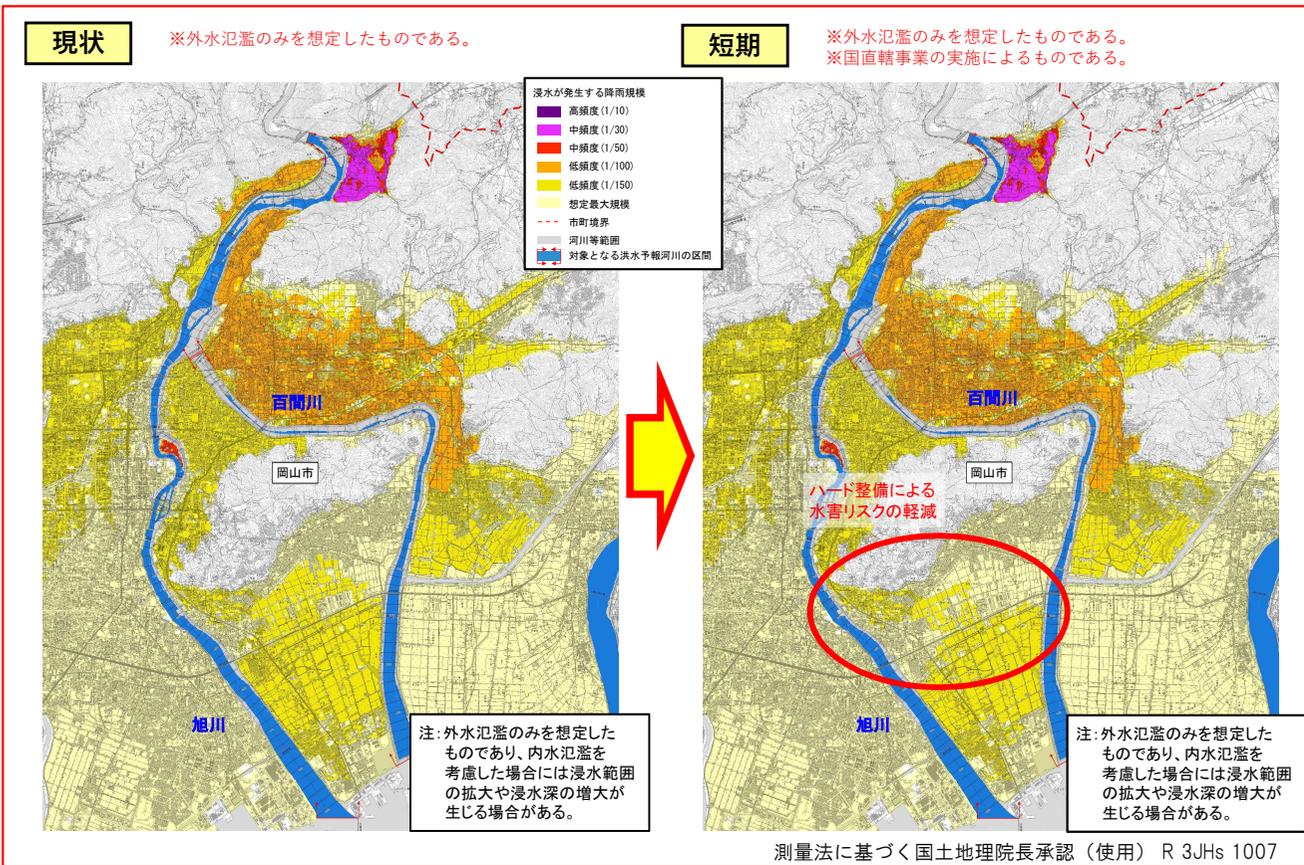
～岡山の政治・経済・文化の中心地を守る流域治水対策の推進～

- 旭川においては、当面の整備として平井、福島、内山下地先の築堤整備、網浜地区の河道掘削が完了することで、平成30年7月豪雨および平成10年10月洪水が再び発生しても、平井、福島、内山下地区において安全に流下させることが可能。
- 引き続き、築堤及び河道掘削を行うとともに、旭川中上流ダム再生事業を推進する。

短期整備（5か年加速化対策）効果：河川整備率 約76%→約85%



下図出典：電子地形図（タイル）



測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R3JHs1007

整備箇所・内容	短期 (R3~R7末) 1/10~1/10		中長期 (R8~R21末) 1/10~1/70	
	進捗率	備考	進捗率	備考
① 平井地先 築堤	100%		100%	
② 福島地先 築堤	100%	短期完了で福島地先の築堤完了を3年前倒し	100%	
③ 網浜地先 河道掘削	100%		100%	
④ 二日市地先 築堤	50%		100%	二日市地先の築堤完了を5年前倒し
⑤ 小橋地先 築堤			100%	
⑥ 内山下地先 築堤	100%		100%	
⑦ 玉柏地先 河道掘削			100%	
⑧ 旭川中上流ダム再生事業	0%		100%	

- 【短期整備完了時の進捗】
- ①平井地先 築堤 100%
 - ②福島地先 築堤 100%
 - ③網浜地先 河道掘削 100%
 - ④二日市地先 築堤 50%
 - ⑥内山下地先 築堤 100%

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

R3

旭川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

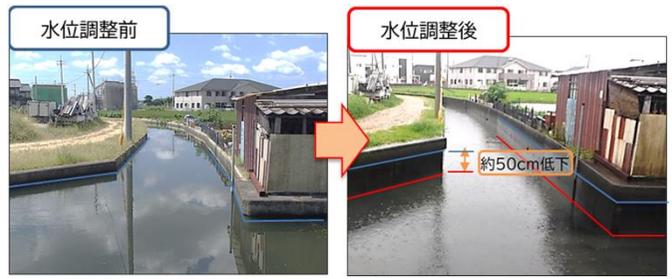
R6年度末時点

～岡山の政治・経済・文化の中心地を守る流域治水対策の推進～

<p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備(見込)</p>  <p>整備率:85% (概ね5か年後)</p>	<p>農地・農業用施設の活用</p>  <p>5市町村 (令和6年度末時点)</p>	<p>流出抑制対策の実施</p>  <p>28施設 (令和5年度実施分)</p>	<p>山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策</p>  <p>治山対策等の実施箇所 1箇所 (令和6年度実施分) 砂防関係施設の整備数 0施設 (令和6年度完成分) ※施工中 14施設</p>	<p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>  <p>1市町村 (令和6年7月末時点)</p>	<p>避難のためのハザード情報の整備</p>  <p>洪水浸水想定区域 (令和6年9月末時点) 145河川 内水浸水想定区域 (令和6年9月末時点) 1団体</p>	<p>高齢者等避難の実効性の確保</p>  <p>避難確保(洪水)計画 (土砂) 1982施設 (令和6年9月末時点) 個別避難計画 7市町村 (令和5年1月1日時点)</p>
---	--	--	---	--	---	---

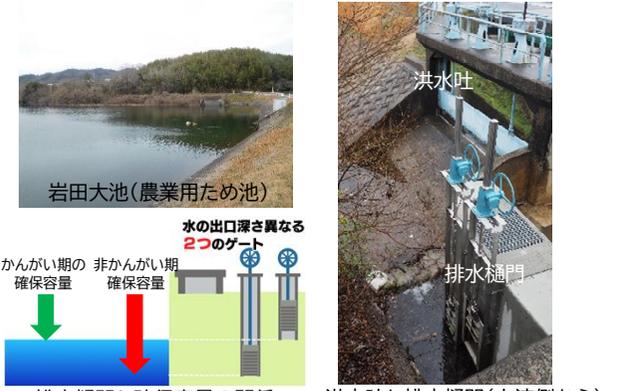
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 既存農業用水路を活用した水位調整(岡山市)
 - ・大雨が想定される場合に事前に農業用水路の水位を低下させ、水路の利水容量を貯水容量として使用することで浸水被害の防止及び軽減を図る



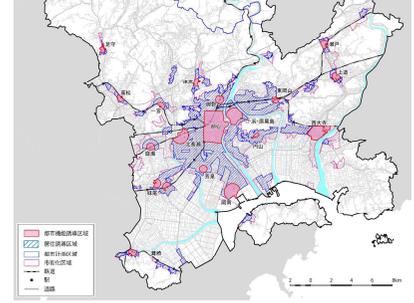
事前水位調整の実施状況

- 農業用ため池の低水管理及び事前放流(赤磐市)
 - ・農業用ため池の洪水吐より低い位置に排水樋門を設置し、大雨時に常に一定量の排水をすることで雨水貯留能力を高め、下流域の浸水被害リスクを低減。



被害対象を減少させるための対策

- 立地適正化計画に基づく浸水リスクを考慮したまちづくりの推進(岡山市)
 - ・洪水浸水想定区域(計画規模)の浸水深3.0m以上となる区域は、垂直避難だけでは生命を守ることが困難であることから居住誘導区域に含めない



居住誘導区域と都市機能誘導区域

- 浸水リスクを考慮した新庁舎の整備(岡山市)
 - ・ハザードマップの浸水想定高さより1階床高を高く設定し、主要な設備機器は浸水の恐れがない5階に配置するなど、自然災害に対して業務継続が可能な防災拠点機能の強化を図る。



被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

- BCP(事業継続計画)策定講座等の実施(岡山県)
 - ・中小企業・小規模事業者を対象にBCP策定に関する講座等を開催
 - ・BCPの重要性や策定時のポイントの解説を行い、計画の策定や見直しを支援

●BCP普及・策定セミナー
令和6年8月9日
【参加人数】51名(38社)

●BCP訓練講座
令和6年9月18日、同10月1日
【参加人数】55名(41社)

●岡山県版かんたんBCPシート普及セミナー
令和6年11月27日
【参加人数】183名(62社)

●岡山県版かんたんBCPシート業種別実践ワークショップ
①小規模事業者向け…令和6年7月10日
【参加人数】22名(20社)
②製造業…令和6年12月10日
【参加人数】16名(6社)
③その他汎用…令和7年2月5日
【参加人数】12名(11社)

※R6実施状況

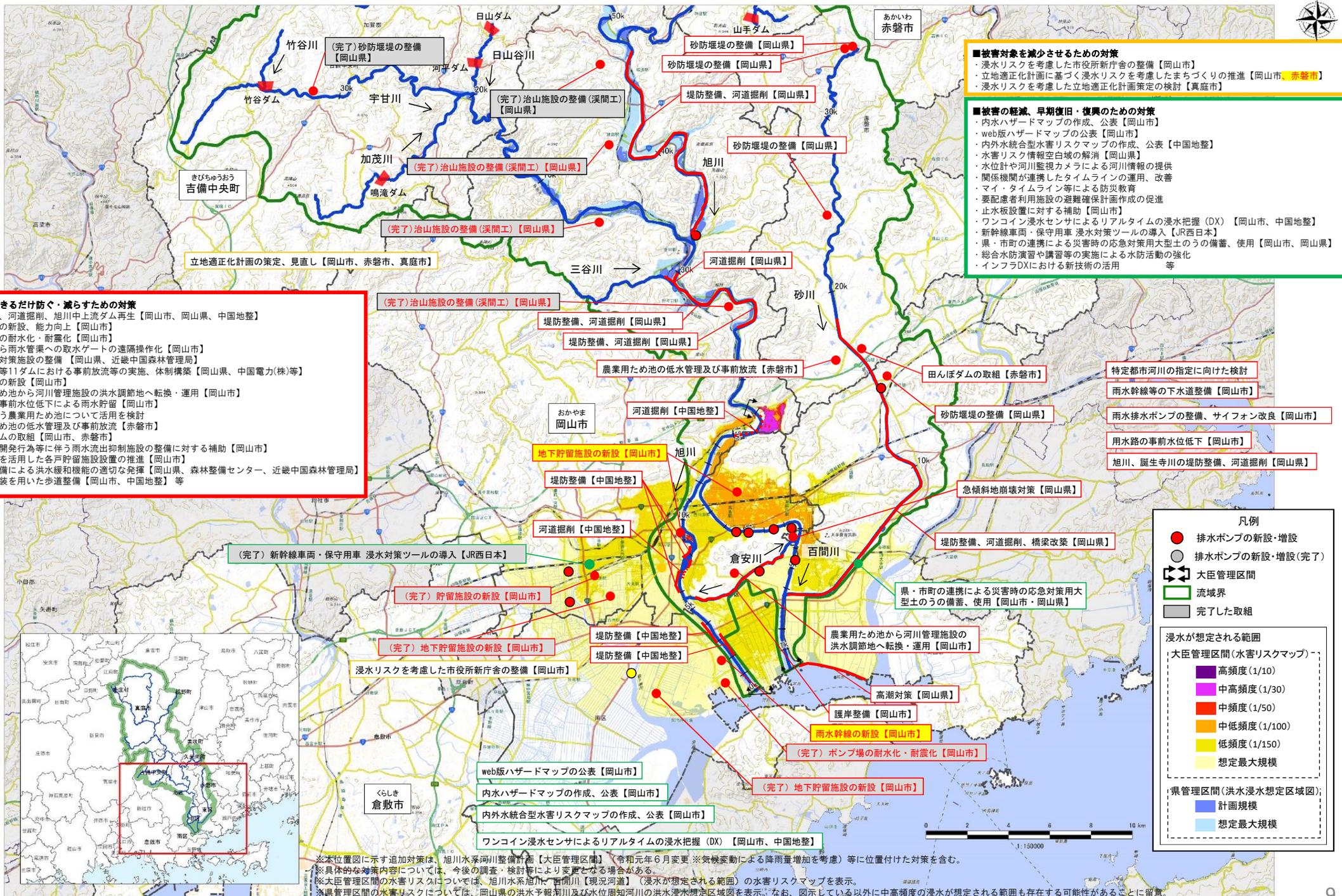
岡山県版かんたんBCPシート
小規模事業者向け実践ワークショップ

対象 小規模事業者(従業員数20人以下)
費用 参加無料
日時 令和6年7月10日(水) 13:30-16:30
講師 岡山県版かんたんBCPシート推進員 亀山 友一郎 氏

未来に備えるBCP
一人材育成につながる事業継続力の強化

開催日時 令和6年8月5日(水) 13:30-16:30
会場 岡山県庁5階 会議室(岡山県庁5階)
参加費 参加無料

講師 岡山県版かんたんBCPシート推進員 亀山 友一郎 氏



■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 堤防整備、河道掘削、旭川中上流ダム再生【岡山市、岡山県、中国地整】
- 雨水幹線の新設、能力向上【岡山市】
- ポンプ場の耐水化・耐震化【岡山市】
- 用水路から雨水管渠への取水ゲートの遠隔操作化【岡山市】
- 土砂流出対策施設の整備【岡山県、近畿中国森林管理局】
- 利水ダム等11ダムにおける事前放流等の実施、体制構築【岡山県、中国電力(株)等】
- 貯留施設の新設【岡山市】
- 農業用ため池から河川管理施設の洪水調節地へ転換・運用【岡山市】
- 用水路の事前水位低下による雨水貯留【岡山市】
- 改修を行う農業用ため池について活用を検討
- 農業用ため池の低水管理及び事前放流【赤磐市】
- 田んぼダムの取組【岡山市、赤磐市】
- 大規模な開発行為に伴う雨水流出抑制施設の整備に対する補助【岡山市】
- 補助制度を活用した各戸貯留施設設置の推進【岡山市】
- 森林の整備による洪水緩和機能の適切な発揮【岡山県、森林整備センター、近畿中国森林管理局】
- 透水性舗装を用いた歩道整備【岡山市、中国地整】等

■被害対象を減少させるための対策

- 浸水リスクを考慮した市役所新庁舎の整備【岡山市】
- 立地適正化計画に基づく浸水リスクを考慮したまちづくりの推進【岡山市、赤磐市】
- 浸水リスクを考慮した立地適正化計画策定の検討【真庭市】

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 内水ハザードマップの作成、公表【岡山市】
- Web版ハザードマップの公表【岡山市】
- 内外水統合型水害リスクマップの作成、公表【中国地整】
- 水害リスク情報空白域の解消【岡山県】
- 水位計や河川監視カメラによる河川情報の提供
- 関係機関が連携したタイムラインの運用、改善
- マイ・タイムライン等による防災教育
- 要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- 止水板設置に対する補助【岡山市】
- ワンコイン浸水センサによるリアルタイムの浸水把握(DX)【岡山市、中国地整】
- 新幹線車両・保守用車 浸水対策ツールの導入【JR西日本】
- 県・市町の連携による災害時の応急対策用大型土のうの備蓄、使用【岡山市、岡山県】
- 総合水防演習や講習等の実施による水防活動の強化
- インフラDXにおける新技術の活用 等

凡例

- 排水ポンプの新設・増設
- 排水ポンプの新設・増設(完了)
- 大臣管理区間
- 流域界
- 完了した取組

浸水が想定される範囲

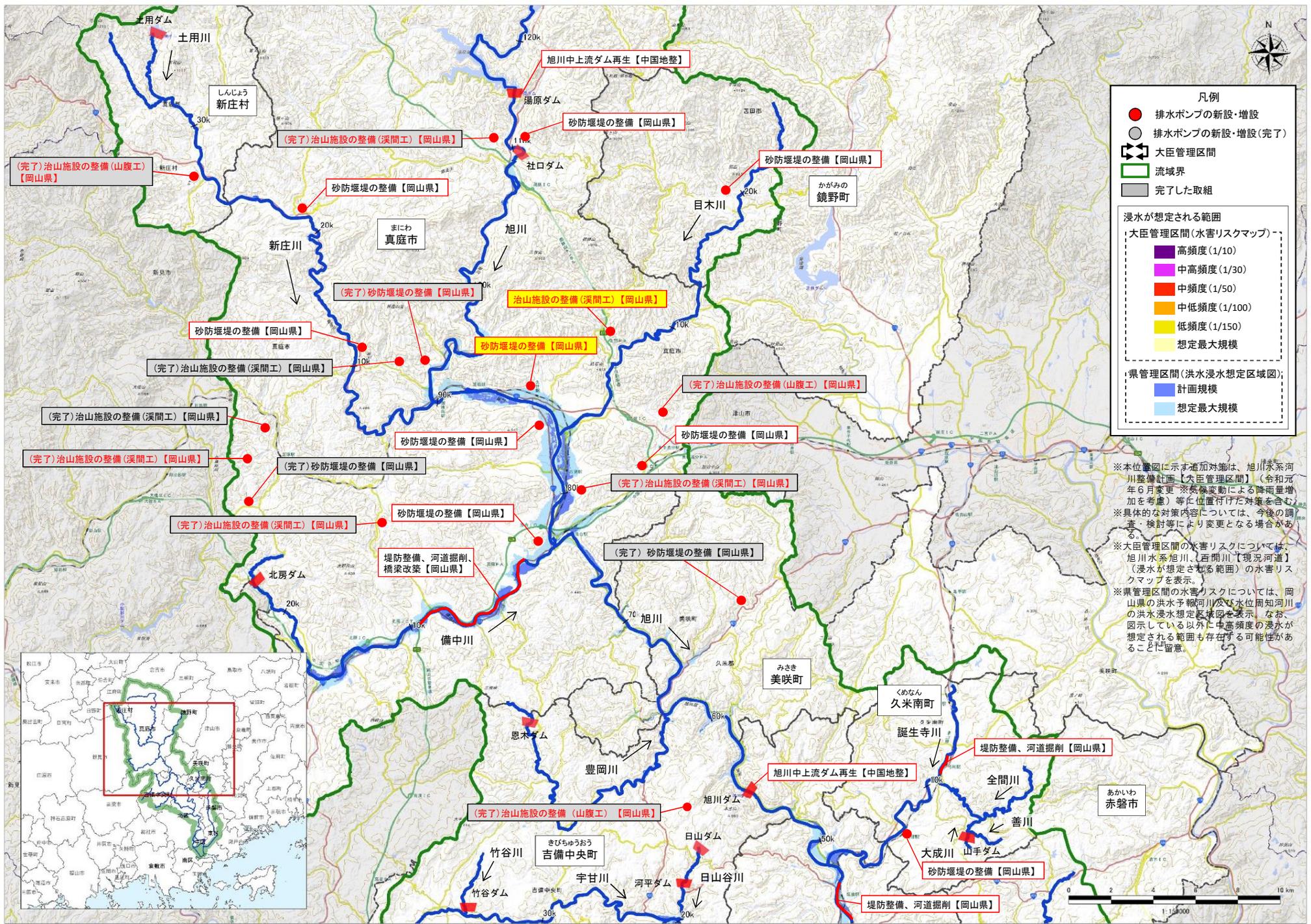
大臣管理区間(水害リスクマップ)

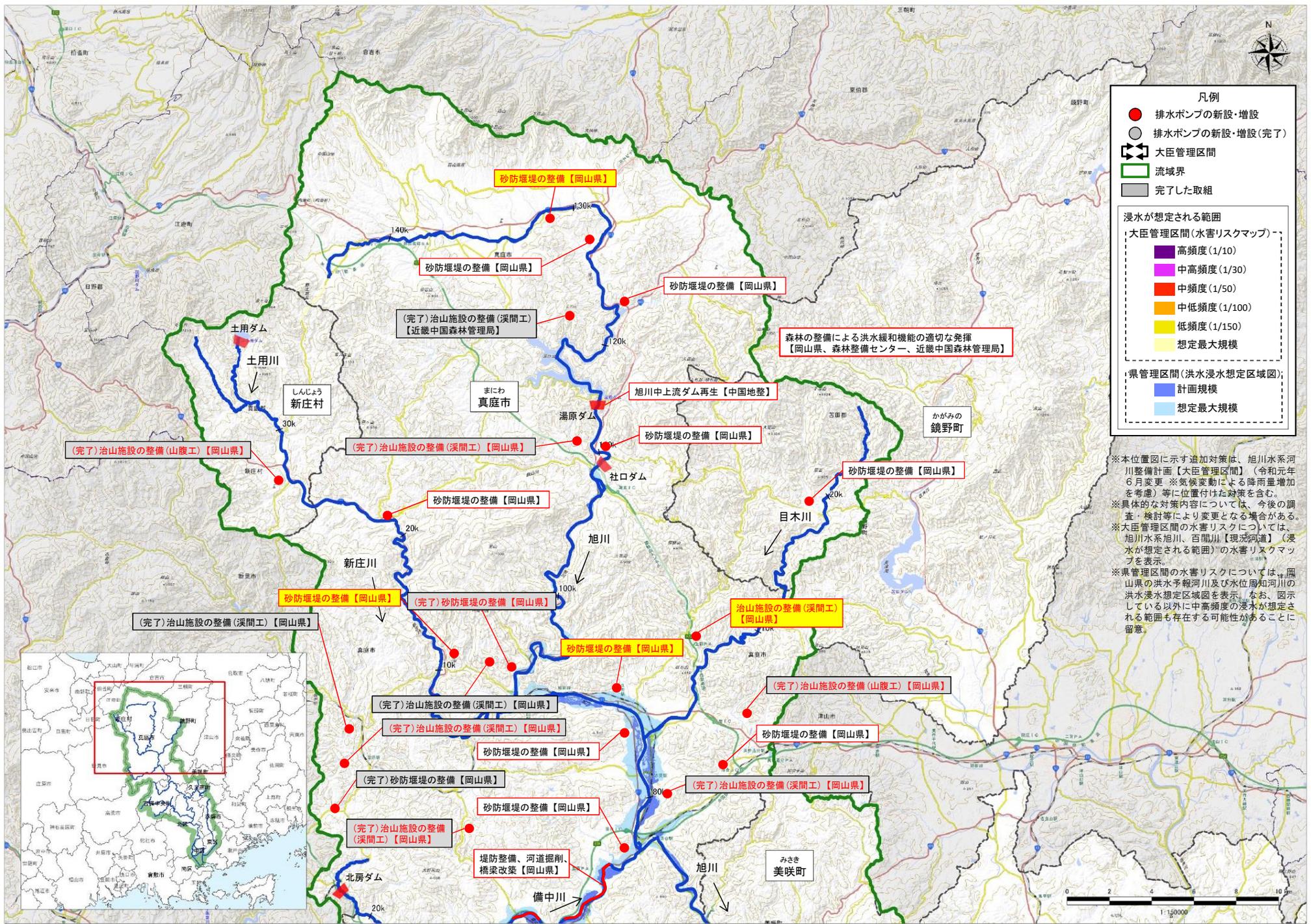
- 高頻度(1/10)
- 中高頻度(1/30)
- 中頻度(1/50)
- 中低頻度(1/100)
- 低頻度(1/150)
- 想定最大規模

県管理区間(洪水浸水想定区域図)

- 計画規模
- 想定最大規模

※本位置図に示す追加対策は、旭川水系河川整備計画【大臣管理区間】（令和元年6月変更 ※気候変動による降雨量増加を考慮）等に位置付けた対策を含む。
 ※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
 ※大臣管理区間の水害リスクについては、旭川水系旭川、百間川【現況河川】（浸水が想定される範囲）の水害リスクマップを表示。
 ※県管理区間の水害リスクについては、岡山県の洪水情報網及び水位周知河川の洪水浸水想定区域図を表示。なお、図示している以外に中高頻度の浸水が想定される範囲も存在する可能性があることに留意。



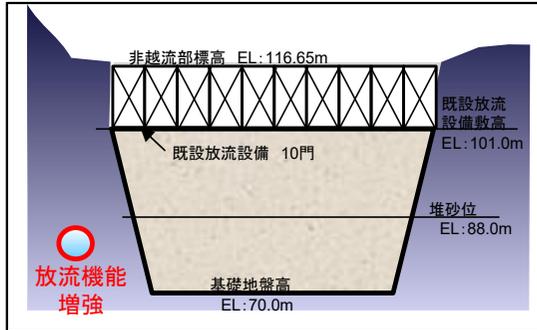


旭川における治水対策の計画段階評価

既存ストック活用を踏まえた洪水調節施設計画の精査

令和2年度 着手時(実施計画調査)

「既存旭川ダムの活用(放流機能の増強)」
～「既存ダム+貯水池」を活用～



洪水調節施設計画の精査

事前放流の更なる活用や放流操作の最適化など既存ストックを最大限活用することを検討し、合理的な事業計画の立案やコスト削減の検討など必要な見直しを実施

既存の「貯水池」を活用したダム再生計画(案)を採用



◇事業着手以降の状況変化

- ✓ 気候変動による降雨量の増加などを考慮した基本方針変更(R6.3)を踏まえた整備計画目標の変更

	現状	変更案
目標流量	6,500m ³ /s	→ 6,900m ³ /s
河道配分流量	5,000m ³ /s	→ 5,000m ³ /s
☆ 洪水調節量	1,500m ³ /s	→ 1,900m ³ /s
⇒ 洪水調節量の 400m ³ /s 増量		

治水対策
へ反映

◇治水対策(洪水調節)へ反映

- ✓ 令和2年度着手時の治水対策(案)の見直しが必要

洪水調節量を
「1,500m³/s 対応」 → 「1,900m³/s 対応」へ
更なる増強対応が必要

旭川ダム(現行)	旭川ダム再生(変更整備計画)
洪水時最高水位 EL: 110.0m	洪水時最高水位 EL: 110.4m
洪水調節容量 23,000千m ³	洪水調節容量 25,000千m ³ (23,000千m ³ +2,000千m ³)
洪水貯留準備水位 EL: 103.5m	洪水貯留準備水位 EL: 103.5m
利水容量 28,772千m ³	利水容量 28,772千m ³ <small>(事前放流により利水容量の一部を洪水調節へ活用 ・本計画においては4,000千m³を見込む)</small>
堆砂位 EL: 88.0m	

旭川水系河川整備計画【大臣管理区間】変更スケジュール（案）

